

● GPA制度とは？

評価	成績	GP
A+	90～100点	4.0
A	80～89点	3.0
B	70～79点	2.0
C	60～69点	1.0
F	0～59点	0.0

合格
不合格

「S・A・B・C・F」
「秀・優・良・可・
不可」など評価
の表し方は大学
ごとに様々

GPA制度では、従来の
4段階ではなく、5段
階で評価する。上記の
点数は一般的な例

「0.0」も
含めてGPAを
算出

0.0が多いとGPAが下
がる。4.0を最高とする
上記の分類が一般的
だが、一部例外も

欧米の大学・高校では一般的な成績評価制度

GPA (Grade Point Average) 制度とは、欧米の大学・高校などで一般的に導入されている成績評価制度。日本でも国際標準化を目指し、主に大学で導入が進んでいる。学期ごとに履修科目のGP (Grade Point) を平均したGPAで学習成果が評価され、科目履修に関する指導や履修制限の基準となる。卒業時のGPAが就職の際に影響すること。

College Life Note

成績評価

GPA制度が普及。 厳格化が進む

「出席しなくても単位が取れる」
はもう過去の話

大学の単位については、かつては、「出席しなくても最後にレポートを出せば単位が取れる」といったことも実際にあったが、最近はその情がかわつてきた。高等教育論などを専門とする同志社大学・山田礼子教授は今の大学の成績評価についてこう解説する。

進みました。今は単位修得のためには、出席することは当たり前で、1回の試験レポートで評価するのではなく、授業ごとに提出するレポートや宿題などを含め、プロセスを評価するしくみが変わってきています」

同時にGPA制度もすでに約4割の大学が導入。GPA制度下では、不合格となった科目が多いとGPAが下がるため、闇雲に科目数を履修して単位を稼ぐやり方は通用しない。そのため、大学側はシラバスを充実させ、学生側は学びたい科目を吟味して履修するというかたちで定着。より自発的・主体的に学ぶ姿勢が問われるようになっていくという。

一方、専門学校ではどうだろうか？ この分野の事情に詳しい東海大学の芦田宏直教授によれば、専門学校では成績評価よりも資格取得や技術習得を重視する傾向が強いのですが、成績評価を厳格化しようという動きも少しずつですが進み始めています。シラバスの充実はかなり進んでいますよとのこと。

学習成果をしっかりと評価してもらうことは学ば側にとってもプラス。進学先を選ぶ際には成績評価制度にも注目しよう。